

受賞者氏名	宮城 孝	
所属	現代福祉学部	
受賞年月日	日本不動産学会 2021年11月27日、都市住宅学会 2021年12月11日	
国内・国外	国内	
授与機関等名称	公益社団法人 日本不動産学会、公益社団法人 都市住宅学会	
受賞名	2020年日本不動産学会著作賞、2021年度都市住宅学会賞・著作賞	
受賞(研究)内容詳細	<p>今回両賞を受賞したのは、宮城 孝、山本俊哉、神谷秀美、陸前高田地域再生支援研究プロジェクト（藤賀雅人、崎坂香屋子、染野享子、仁平典宏、松元一明、森脇環帆）編著『仮設住宅 その10年－陸前高田における被災者の暮らし－』御茶の水書房、2020年12月 によるものです。</p> <p>本書は、東日本大震災において岩手県で最も甚大な被害を受けた岩手県陸前高田市をフィールドに、10年間に渡る応急仮設住宅における被災者の暮らしを実証的かつ学際的に研究した学術書です。建築学、都市計画学、地域福祉学、社会学、公衆衛生学、防災学、芸術学等の多領域から仮設住宅や被災地の復旧・復興過程を、被災者の暮らしに焦点を当て、包括的に描き出した内容となっています。</p> <p>陸前高田地域再生支援研究プロジェクト（研究代表 宮城 孝）は、2011年5月から陸前高田市において、被災住民自身が地域の再生、生活再建に向けてその課題を話し合い、主体的な取り組みを行うことを支援してきました。そして、仮設住宅および被災地域におけるコミュニティの形成のあり方を共に模索しながら、陸前高田市の復興における地域再生のモデルづくりに寄与することを目的として、約10年間活動を続けてきました。本プロジェクトが、随時行ってきた研究会は約70回に及びます。これらの調査や被災地支援のワークショップ等に関わった大学教員、実務者、大学院生、学部生は、延べ約600人となっています。</p> <p>本書は、本プロジェクトによるこれまでの約10年にわたる調査研究や地域再生への支援の取り組みの成果をまとめたものです。本書は、以下の論文8章と資料編で構成されています。</p> <p>第1章 総論「仮設住宅 その10年－陸前高田における変遷と被災者の暮らし」  第2章 「陸前高田市における仮設住宅の建設の特徴と住宅性能」  第3章 「被災者の身体とこころの健康の変化」  第4章 「津波で家族を失った被災者における悲嘆からの回復－それぞれの被災体験とレジリエンス－」  第5章 「仮設住宅居住者への外部支援の役割と課題」  第6章 「陸前高田市の復興計画と復興事業の問題点」  第7章 「住宅再建と地域再生への支援」  第8章 「陸前高田の仮設住宅発・津波からの逃げ地図づくりの展開」</p> <p>資料編</p> <p>今回の受賞により、被災地の復興過程における学際的な研究のあり方について、評価していただいたとしたら望外の喜びであります。</p>	